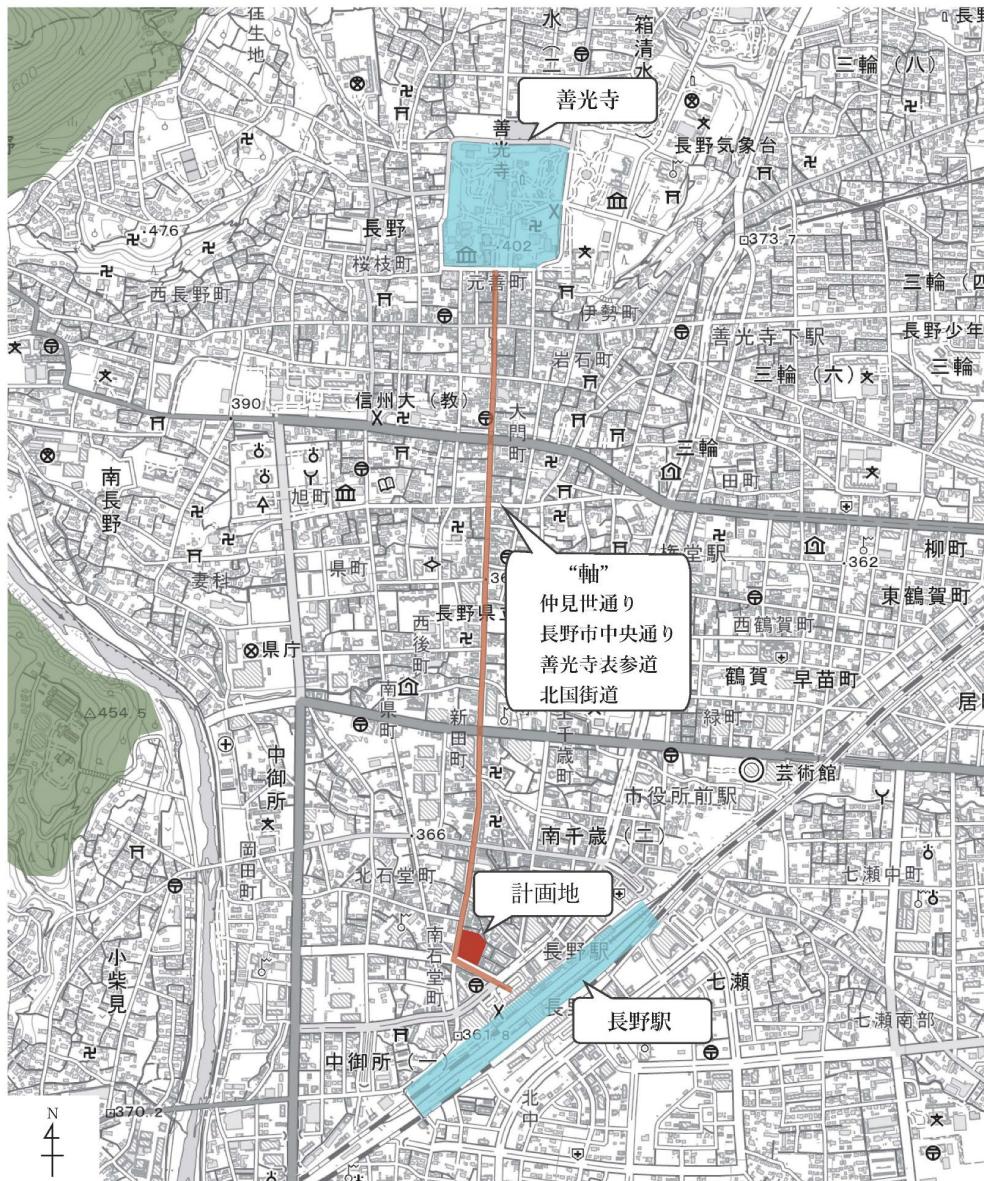


長野駅前B-1地区市街地再開発事業
デザイン説明資料

長野駅前B-1地区市街地再開発準備組合
2025年2月1日

Concept

01. 敷地分析



ランドマークである”長野駅”、”善光寺”を繋ぐ”軸”沿いの結節点

“善光寺”は祈りの対象として、

“長野駅”は交通の主要拠点として、

“軸”（仲見世通り、長野市中央通り、善光寺表参道、旧北国街道）は祭り（びんざる祭り、ながの祇園祭）のルートなど善光寺・長野駅を繋ぐ主要道路として、過去から現在までこの地に住まう人々、訪れる人々の重要な賑わいの拠点となっている。

本計画地は各拠点の賑わいを未来に繋げていく結節点となる場所である。

Concept

02. キーワード、デザインコンセプト

軸を中心として重ねてきた歴史を可視化し、調和・象徴を体現するファサード

軸を中心として、由緒ある不变の要素と開発により変わっていく都市的な可変の要素が混在・調和するまちである。

軸の角にある結節点に長野らしいイメージ（調和）と新たなランドマークとなる都市的なイメージ（象徴）を併せ持つ建築を計画する。

土地の歴史を継承した調和のデザインによる長野らしさの再認識、都市的な象徴のデザインによるランドマークとしての賑わいの創出により、住まう人々・訪れる人々に対する価値を生む。

Concept

03. デザイン手法

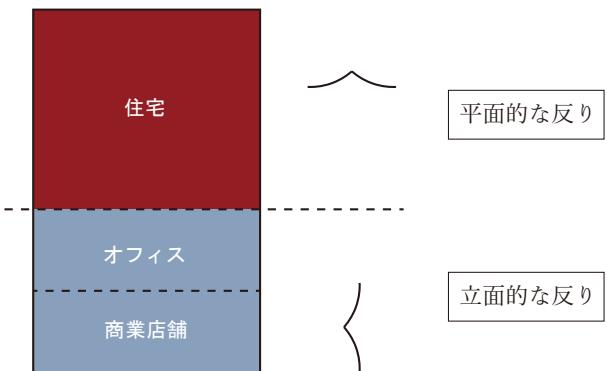
全体計画 - 長野らしさの表現 -

- 善光寺の特徴的な建築様式である”撞木造り”を読み替え長野らしさを表現

- A. 外陣（土足で入れる。賽銭箱があり、たいていの参拝者はここで礼拝する） ⇒商業店舗
- B. 内陣（有料で入れる畳敷きの広間。僧侶が読経を行う。戒壇の順番待ちの控え所にもなる） ⇒オフィス
- C. 内々陣（本尊や本田善光らの像が安置されている。戒壇巡りはこの床下を通る。床上は内陣から遠目に拝むだけで、参拝者が踏み入ることは原則不可） ⇒住宅

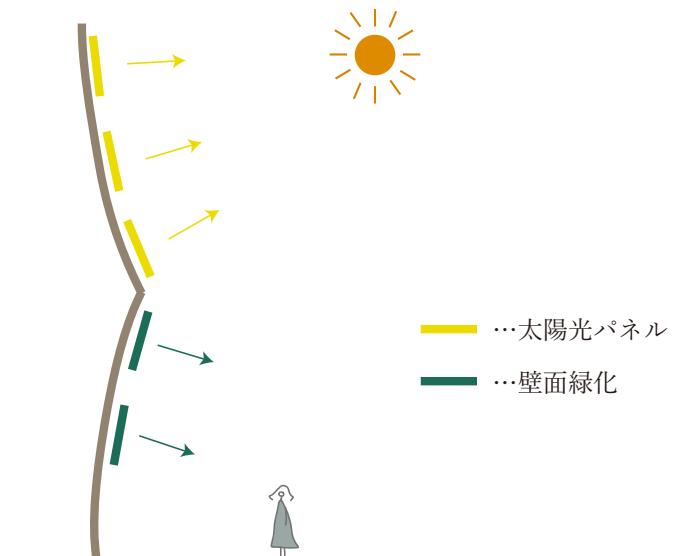
- 高層・低層で反りの軸を変える

善光寺の反りをイメージ



商業・オフィス部のデザイン - 反りを活かしたデザイン -

- 太陽に向かう反りの上部に太陽光パネル、まち行く人々に向かう反りの下部に壁面緑化を計画し、太陽光の効率と景観を両立させる



- 夜間は反りを表現したルーバーからこぼれる光により、長野らしい提灯や照明のようなイメージとなり、長野のまちを柔らかく照らす

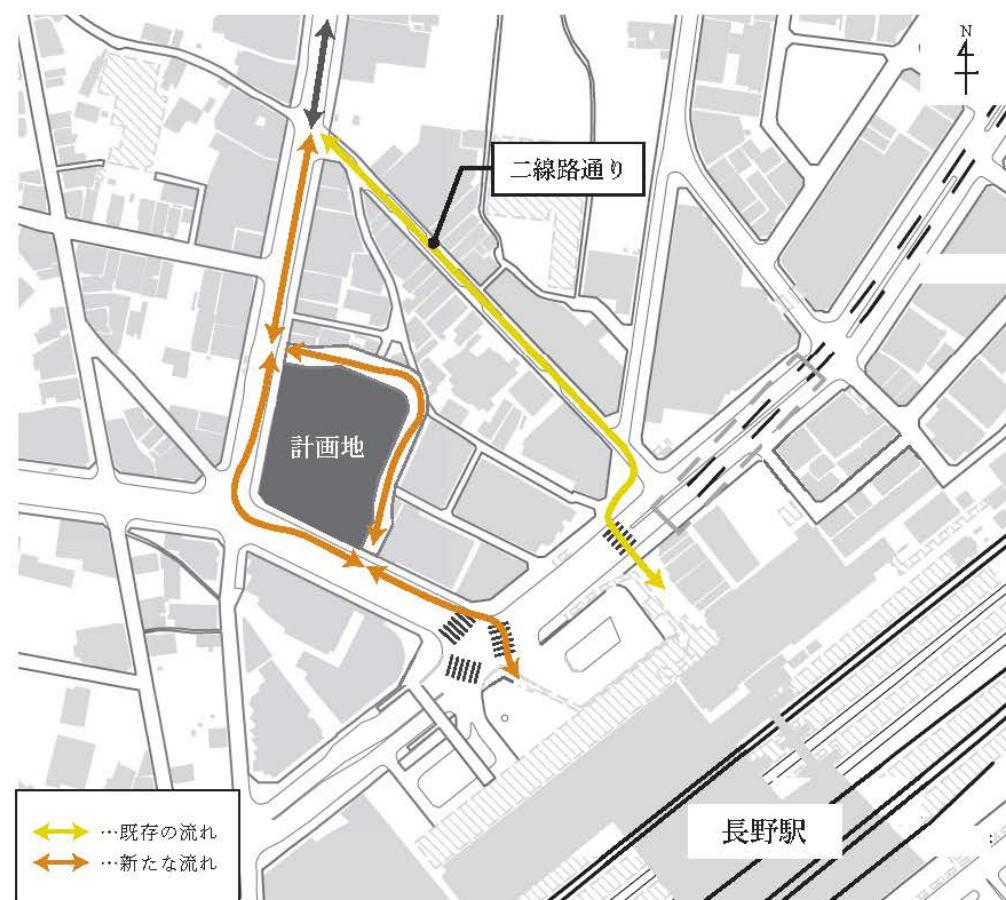
Concept

03. デザイン手法

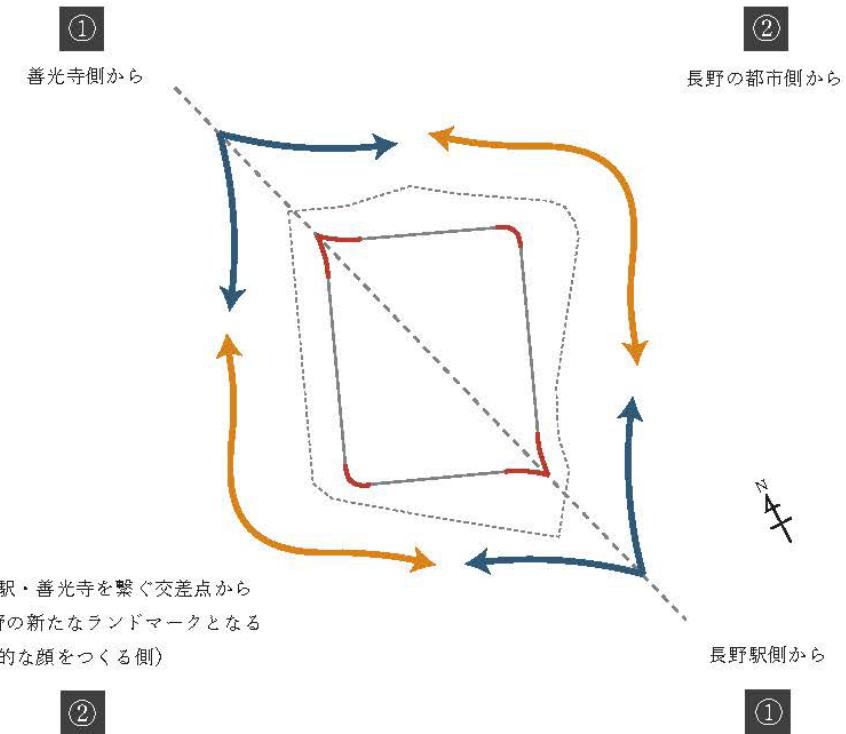
住宅部のデザイン

●曲線のデザインにより、まちに新たな人の流れを作る

現状長野駅 ⇔ 善光寺間の歩行者交通において、二線路通りの交通量が多い。
敷地南西側の交差点・敷地北東側の新設道路に沿って緩やかに繋がる曲線のデザインを建物に取り入れ、
本計画地が新たなランドマークとなることで、まちに新たな緩やかな人々の流れを作る。



●各方位からの外観の位置づけを分析し、調和・象徴を表現



①長野の玄関口である長野駅、歴史ある善光寺から見る方向
長野らしいデザイン：“反り” × “木”



②象徴的な顔をつくる必要のある角、長野の都市から見る方向
都市的なデザイン：“曲線” × “ガラス”



当資料の内容は現段階の検討状況に基づくものであり、今後変更となる可能性があります



当資料の内容は現段階の検討状況に基づくものであり、今後変更となる可能性があります